

盛岡市立上田小学校区

安全マップ



令和7年度

上田小学校PTA

目次

◇ はじめに	1
◇ 上田小学校区地図	2
◇ 地区別マップ	
上田一・二・北山子ども会	3
上田三丁目子ども会	4
上田四丁目子ども会	5
さくら子ども会	6
高松子ども会	7
高松二丁目北区子ども会	8
舘向地区子ども会	9
上田地下道	10
◇ ここに気をつけよう	11
◇ こんなところが危ない	13
◇ 参考資料	
ぴかぼメール登録用QRコード	18
まち comi メール登録用QRコード	19

はじめに

● 保護者の皆様へ

上田小学校区の安全マップは、2006(平成 18)年度に初版が発行されて以降、2012(平成 24)年度、2020(令和 2)年度と、これまで 2 回に渡って改訂されてきました。歴代の保護者、また子どもたち自身による地域の安全のための取り組みをしっかりと受け継ぎ、より定着させるため、2021(令和 3)年度より毎年内容を見直し、更新したものを新一年生に配付することにしました。

安全マップの目的は、子どもたちが不審者による犯罪等から身を守る知識や危険な場所を見極める力を養うこと、そして、私たちの住む地域を安全で、より安心して生活できる場所にすることにあります。

この安全マップをぜひ親子、家族でお読みくださり、安全・防犯に対する意識を高めていきましょう。

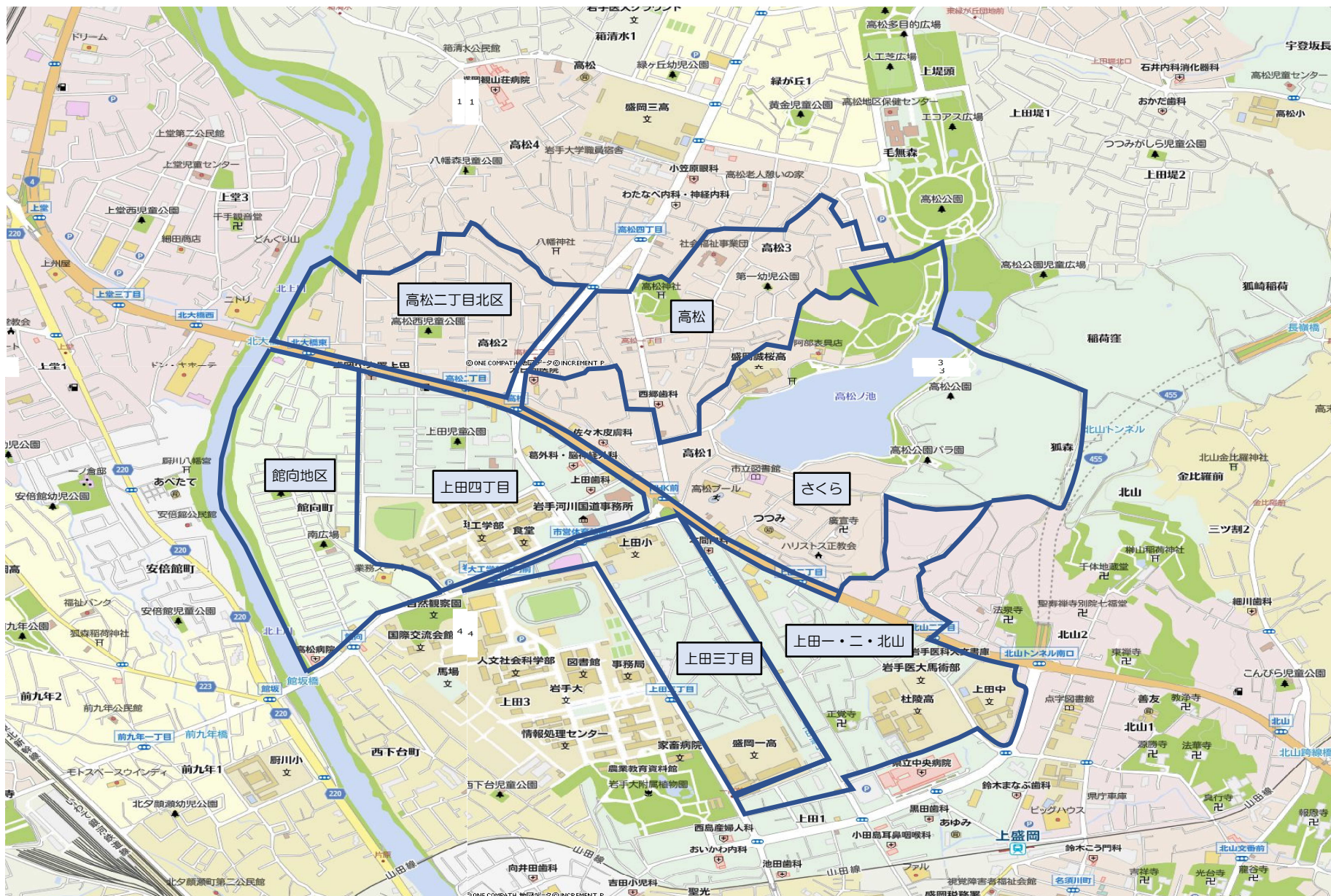
● 児童のみなさんへ

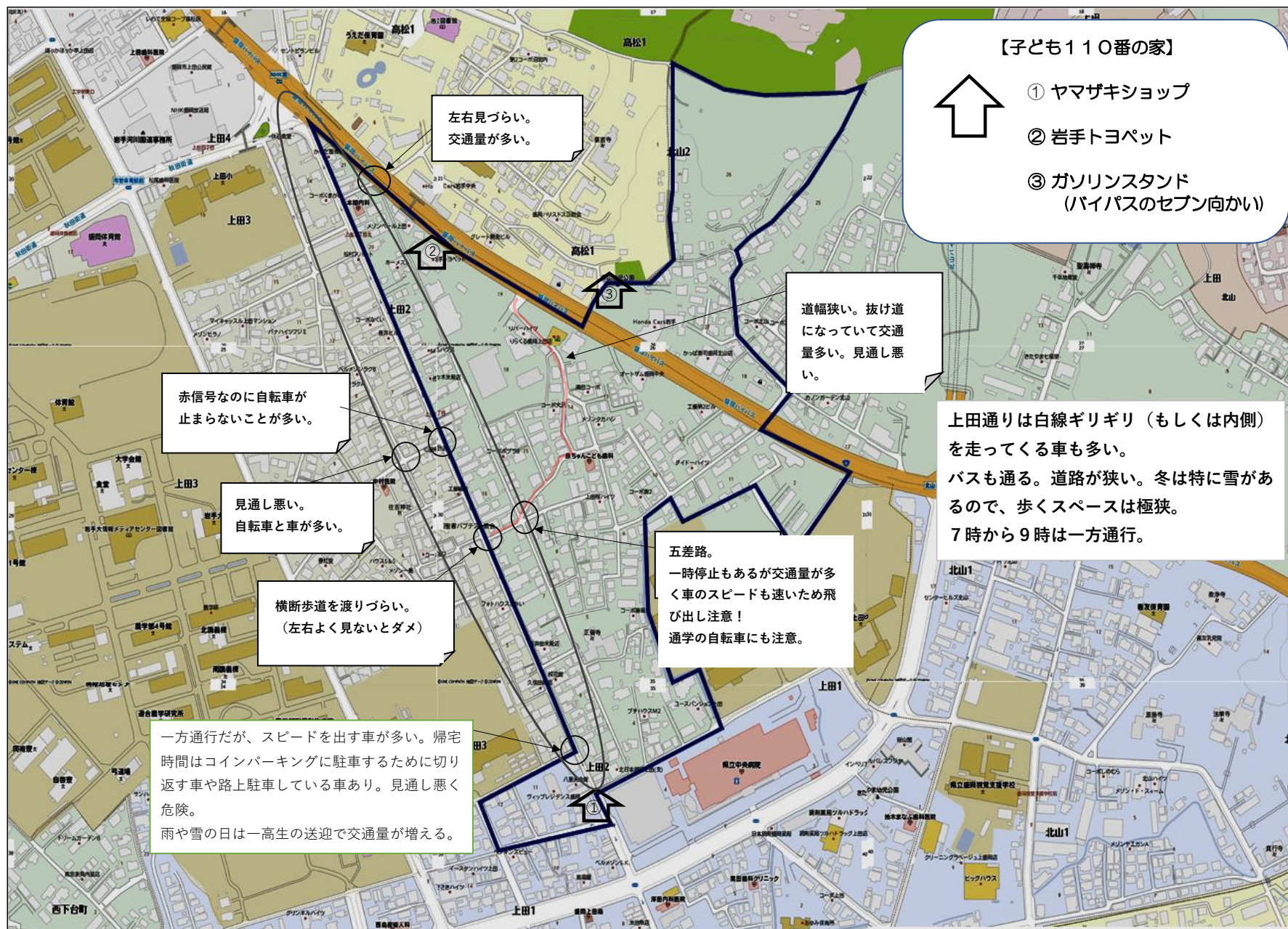
ふだん何気なく通っている通学路、友だちの家にあそびに行く道にも、よく見るとあぶないところがあります。自分の不注意や相手の不注意でヒヤリ！

とか、はっ！とした経験をしたことはありませんか？ また気づいていないだけで、すぐ近くにも危険はたくさんかかれています。

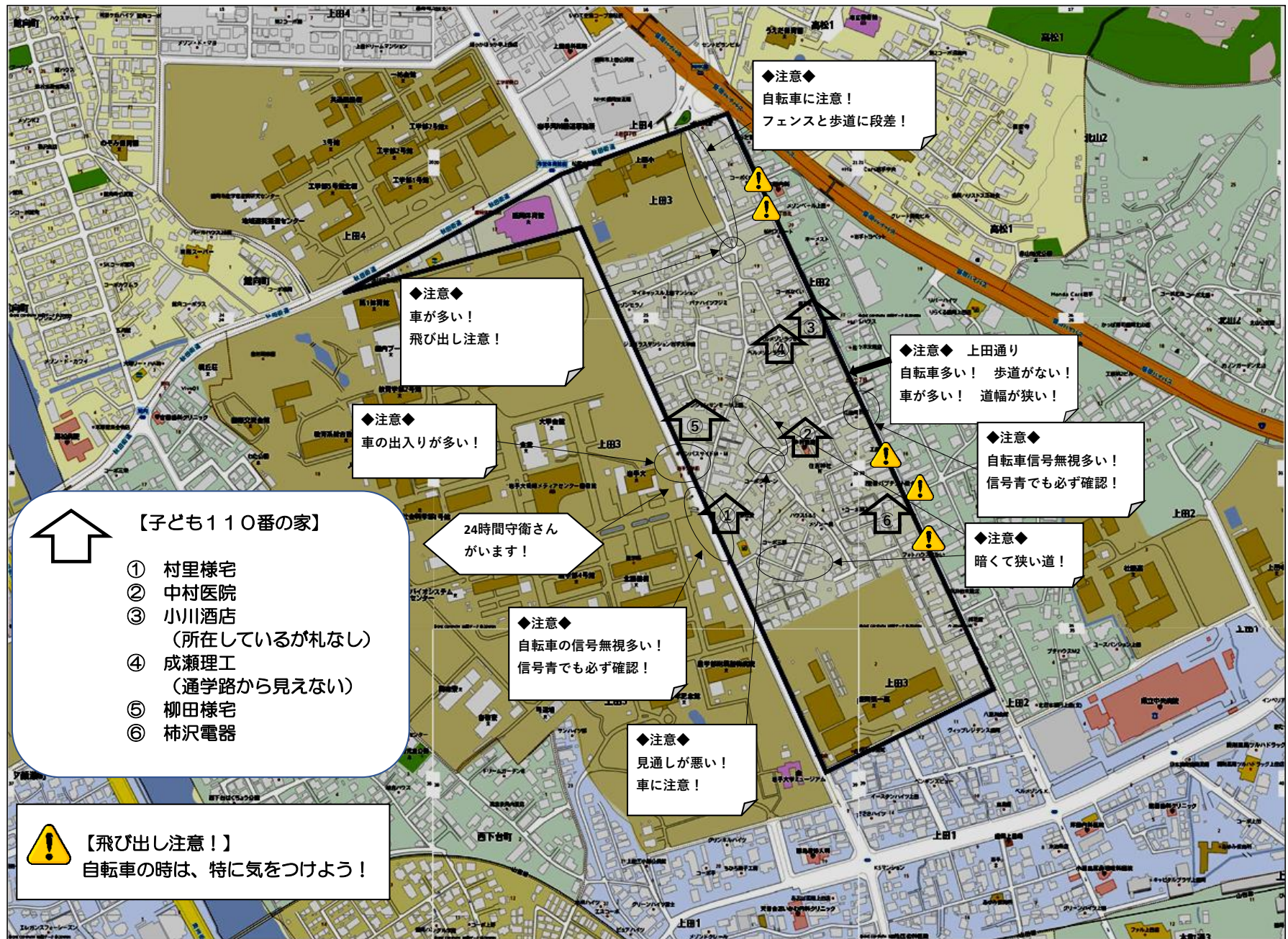
この冊子をおうちの人といっしょに見たり読んだりして、みなさんが住んでいるこの上田学区のことをよく知り、自分はもちろん、地域みんなも安心して過ごせる地区にしていこう！と考えてもらえたらうれしいです。

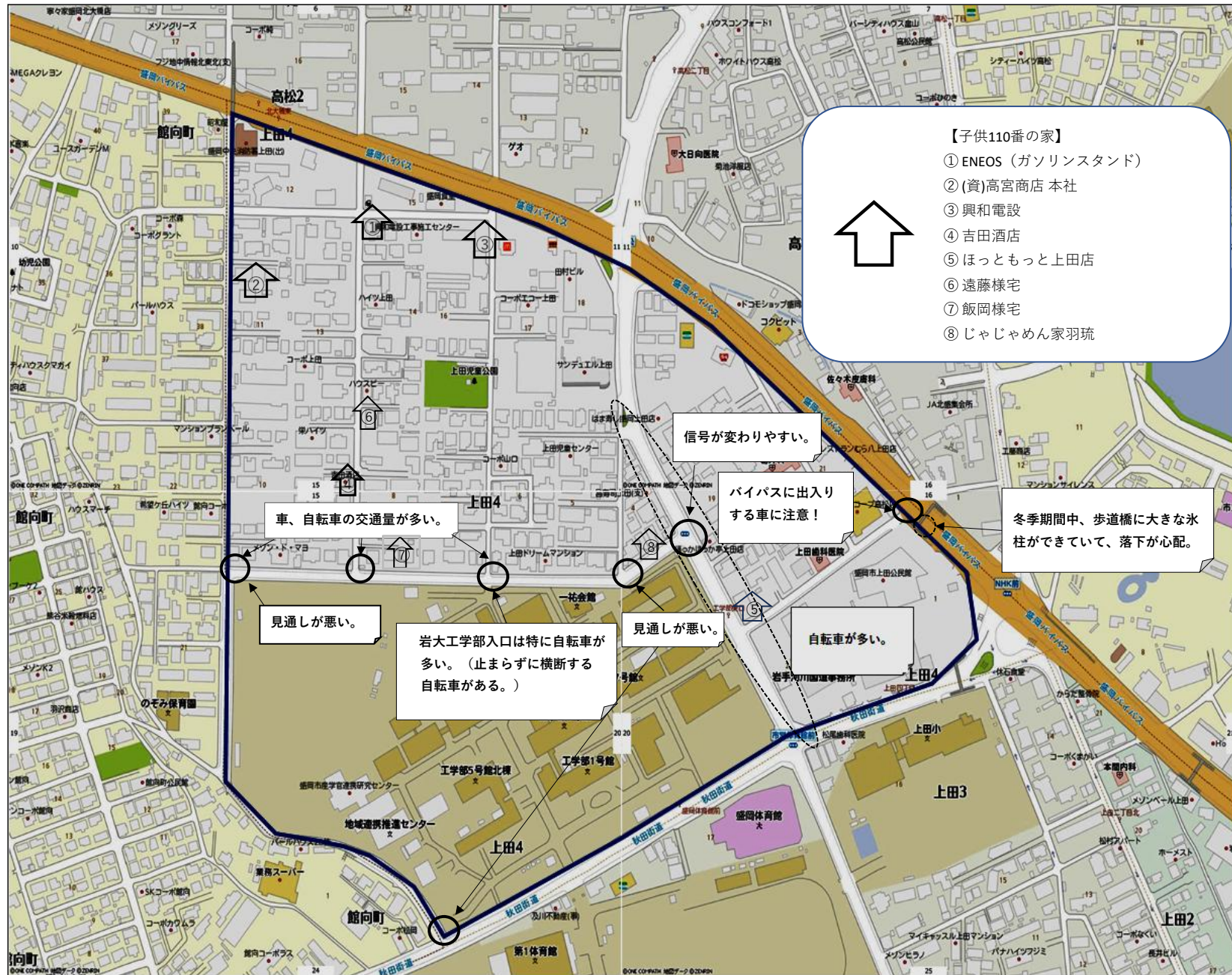
【上田小学校区地図】



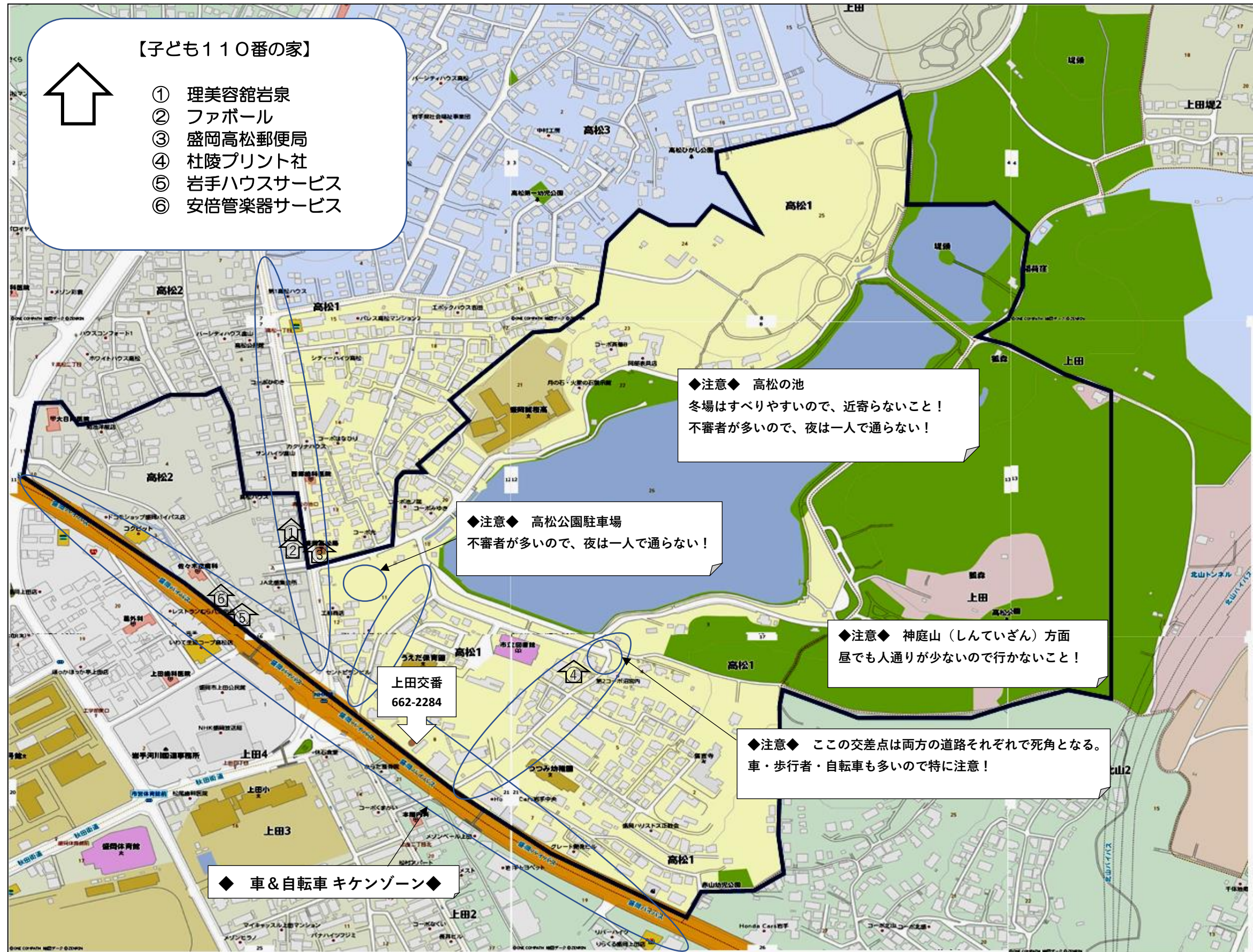


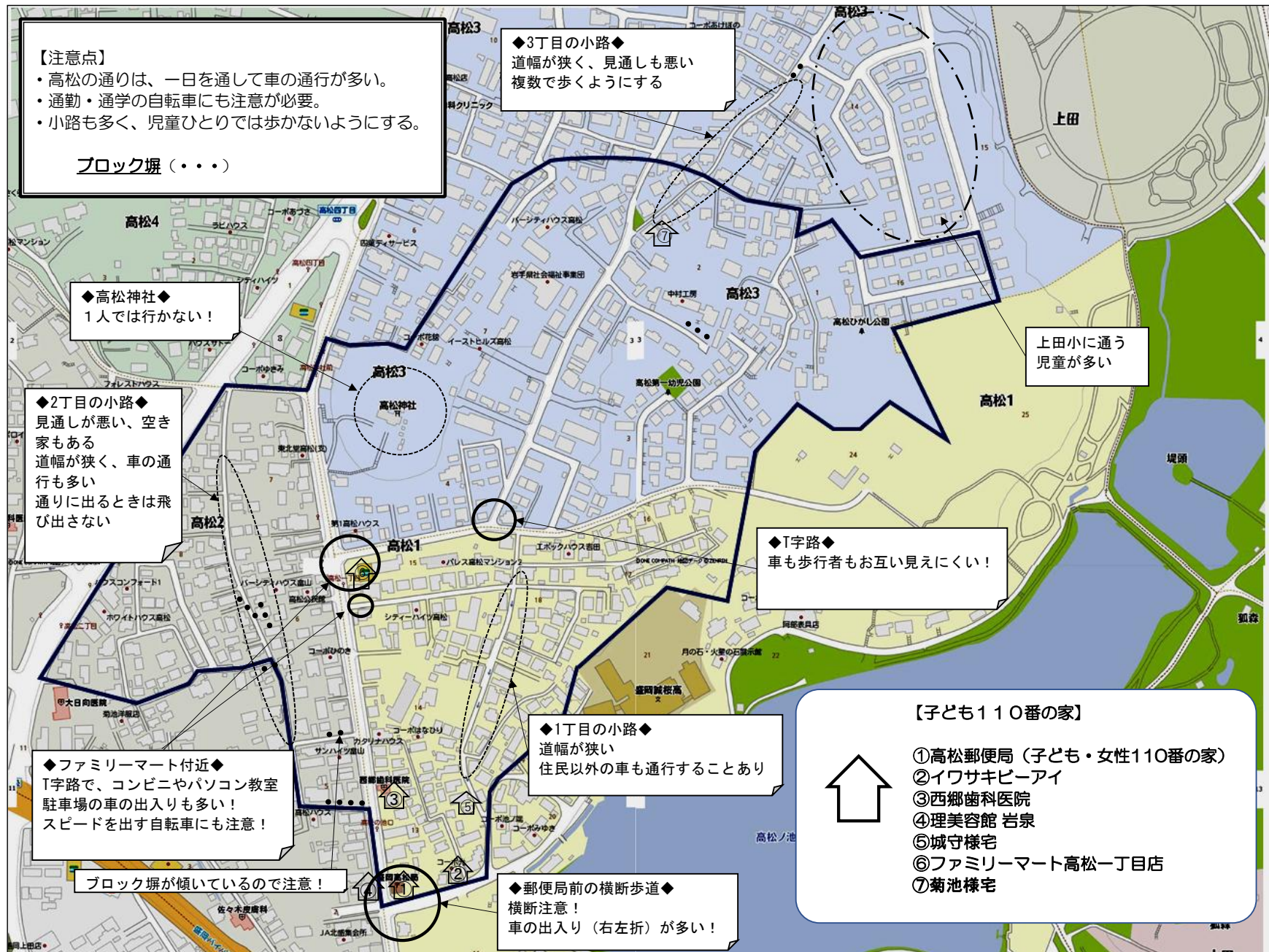
【安全マップ：上田三丁目子ども会】





【安全マップ：さくら子ども会】

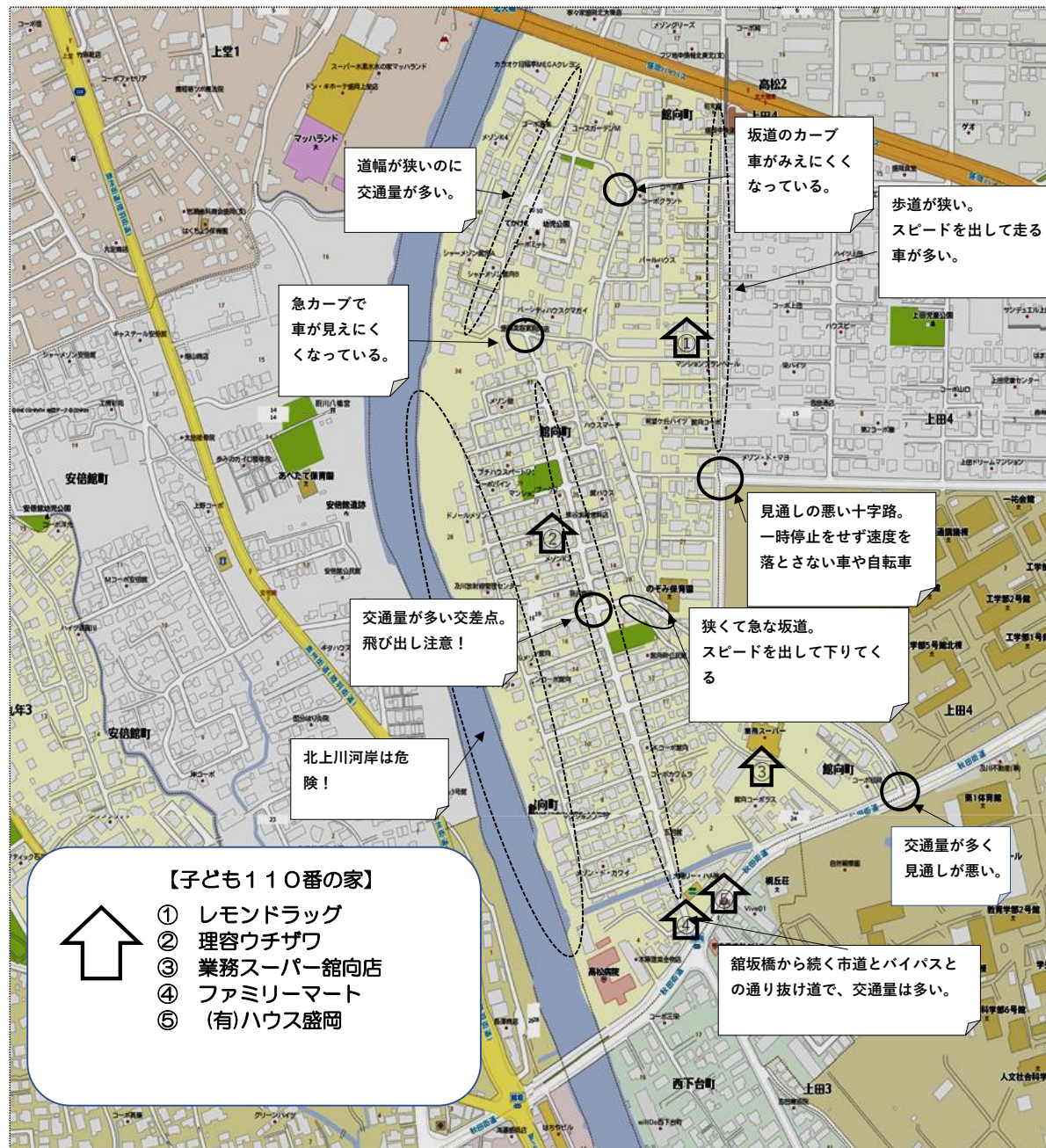




【安全マップ：高松二丁目北区子ども会】

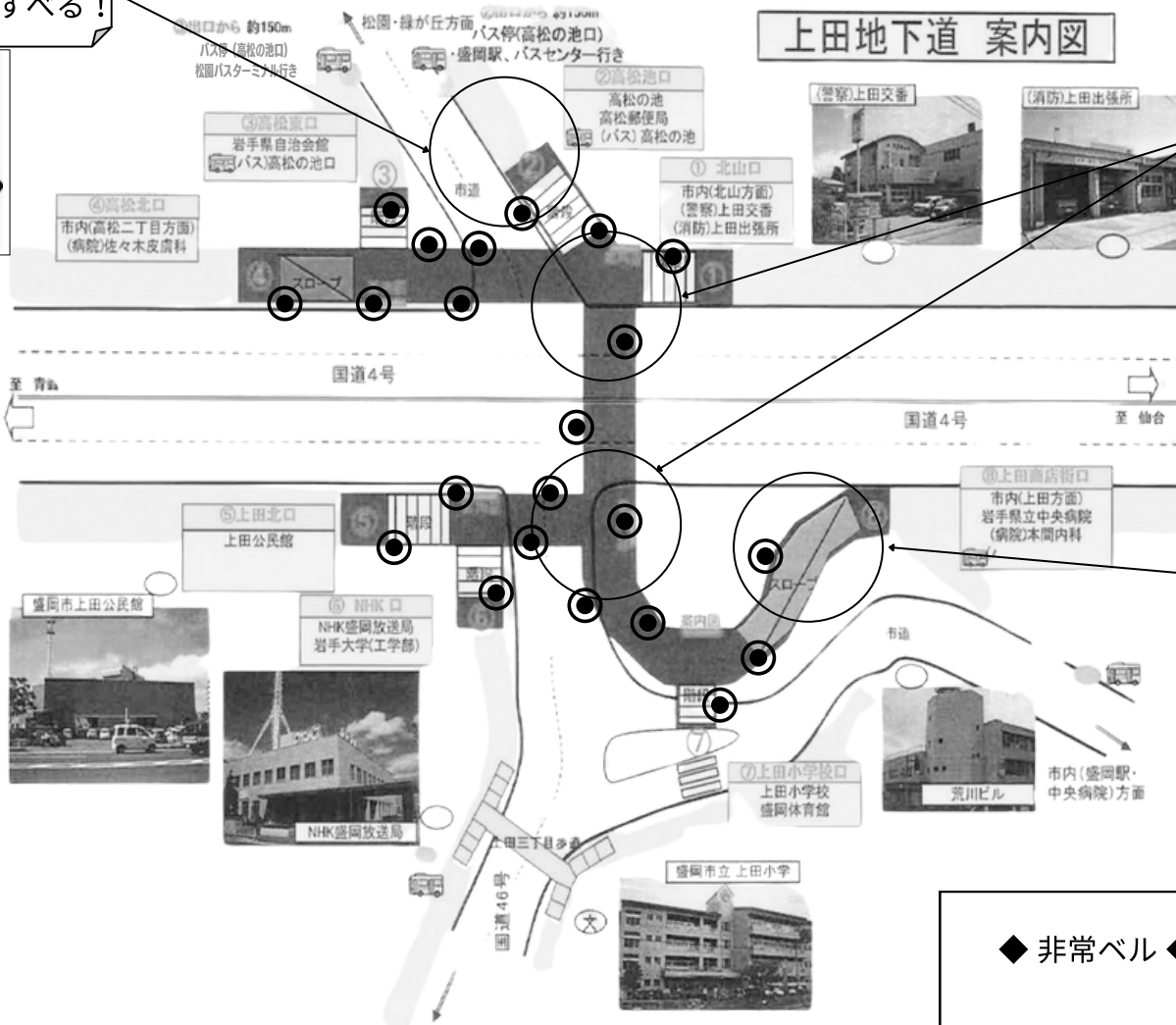


【安全マップ館向： 館向地区子ども会エリア】



【上田地下道】

◆注意◆
冬場、凍結！すべる！



上田地下道 案内図

◆注意◆
交差点です！



地下道では自転車を
降りましょう！



◆注意◆
すべる！



◆非常ベル◆



ここに^き気をつけよう！！

こうつうあんぜんへん 交通安全編



- ① 道路には飛び出さない。車^{くるま}が通^{とお}る道路では遊^{あそ}ばない。
- ② 細^{ほそ}い道^{みち}をスピードを出^だして通^{とお}る車^{くるま}に気^きをつける。
- ③ 交差点^{こうさてん}では、信号^{しんごう}が青^{あお}でも必^{かなら}ず左^さ右^{ゆう}の確^{かく}認^{にん}をしてから渡^{わた}る。
- ④ 自^{じてん}転^{しゃ}車^おが多^{おほ}く通^{とお}るところでは、自^{じてん}転^{しゃ}車^おとぶつからないよう^{ちゅうい}に注^{ちゅう}意^いする。
- ⑤ 自^{じてん}転^{しゃ}車^おに乗^のる時^{とき}は学^{がっこう}校^{おそ}で教^{まも}わったル^{まも}ール^{まも}を守る。

☆ 自^{じてん}転^{しゃ}車^おの乗^のり方^{かた}「6つのルール」☆

1. 左^{ひだり}側^{がわ}通^{つう}行^{こう}をします。
2. 交差点^{こうさてん}では一^{いち}時^じ停^{てい}止^しをし、左^さ右^{ゆう}確^{かく}認^{にん}をかならず行^{おこな}います。
3. スピードの出^だしすぎや、ふらふら運^{うん}転^{てん}はしません。
4. 2台^{だい}以上^{いじょう}ならんで走^{そう}行^{こう}しません。
5. 夕^{ゆう}方^{がた}はライトをつけましよう。
6. ヘルメットをかならずかぶりましよう。



※ 1・2年生は家^{ねんせい}の周^{いえ}り、3・4年生は子^{ねんせい}ども会^この地^{かい}区^{ちく}内^{ない}、

5・6年生は学^{ねんせい}区^{がく}内^{ない}を乗^のりましよう。

● お家の方へ

お子さんの通学路をきちんと把握していますか。お子さんがいつも通る道を一緒に歩いてみたり、普段の生活の中でも交通ルールを守ることを教え、一人でも安全に行動できるようにしましょう。

また、お子さんが普段どんなところを遊び場に行っているか把握していますか。遊びから帰ってきたら「どんなところで遊んできたの？」と毎日聞いて、気になるところは一緒に行ってみるとよいでしょう。

さいがいじへん 災害時編

- ① 外で遊んでいるときに大きな地震があった場合、

避難する場所を覚えておく。

- ② 災害時は電話がつながりにくくなるので、

携帯電話よりつながりやすい公衆電話の場所も覚えておく。



● お家の方へ

お子さんが一人で、または子どもだけでいる時に地震などの災害が起きた場合、どこに行ったらいいのか、どのように行動したらいいのか、お子さんと話をしたことはありますか。

大きな地震が起きた時に倒れてきそうなブロック塀や看板、落ちてきそうな屋根瓦などの場所を確認したり、それらのものから身を守る方法についても、お子さんと話をしておきましょう。



あぶ こんなところが**危**ない！！

じぶん み まも
～自分の身を守ろう～

ぼうはんへん 防犯編

1. 「イカのおすし」をおぼえよう！

イカ・・・(知らない人^{ひと}にはついて) **イカ**ない。

の・・・(知らない人^{ひと}の車^{くるま}には) **の**らない。

お・・・「たすけて」と**お**お^{こえ}声^だを出す。

す・・・**す**ぐ^に逃げる。

し・・・どんなことがあったか、家の人^{いえ}に**し**らせる。



2. こういう車^{くるま}には近づかない^{ちか}

① エンジンをかけっぱなしの車^{くるま}

② 中に人がいるのにエンジン^きを切って止まっている車^{くるま}

③ ガラスが真っ黒で、中が見えない車^{くるま}

④ 運転手^{うんてんしゅ}が中からじっとこちらを見ている



もしそんな車に追いかけられたら、近くの家や大人に助けをもとめよう。

車は簡単にUターンできないので、車の進行方向と反対の方向に

逃げれば良い場合もあるよ。

3. 事件や事故がおきやすいところは・・・

① 木が茂って見通しの悪い公園やそのトイレ

② 神社・お寺・工事現場・空き家・

「チカンに注意」などの看板のある場所

③ らくがきがある場所やゴミが不法投棄されている場所

④ 人のいない駐車場や駐輪場、路上駐車が多い場所

⑤ 高い壁があって人通りの少ない道、街灯がない暗い道、歩道のない道

⑥ 公衆トイレやエレベーターなど一人になりやすい場所

⑦ 一人で留守番している時の家の中



「入りやすい場所」 + 「見えにくい場所」 = 「犯罪が起こりやすい場所」

入りやすい場所とは、どこからでも入れて、どこからでもにげられる。

見えにくい場所とは、なにが起きているのかわからない。

4. いざという^{とき}時^{ばしょ}にかけこめる^し場所^しを知ろう！

- ① ^こ子ども110番^{ばん}の家^{いえ}や店^{みせ}、防犯^{ぼうはん}連絡^{れんらく}所^{じょ}、友だち^{とも}の家^{いえ}
- ② コンビニエンスストア、ファミリーレストラン、ガソリンスタンドなど
- ③ ^{がっこう}学校^{びょういん}、病^{ゆう}院^{びんきょく}、郵便局^{ゆう}など

^{あんしん}安心^{ばしょ}できる^し場所^しのポイント^しは

^{こうきょう}「公^{しせつ}共^{みせ}の施^{しんよう}設^{ひと}」「店^{しんよう}」「信用^{ひと}できる^{ひと}人^{ひと}がいる」

^{あか}「明^{ひとめ}る^{おお}く人^か目^{そくづ}が多い^{おお}」「家^お族^お連^おれが多い^お」



● お家の方へ ～犯罪から子どもを守るためにできること～

1. 子どもを守る合言葉「イカのおすし」を普及させる。

いざという時に忘れてしまわないように、日頃から繰り返し声に出して覚えましょう。

2. 家庭でも防犯教育を行う。

普段の生活の中で、子どもたちに防犯教育を行うことはとても重要です。

「出かける時は、行き先と帰る時間を必ず教えること」

「一人では行動しないこと」

「一人で留守番する時は必ず家の鍵をかけること」

などを習慣にすることが、防犯行動につながっていきます。

3. 防犯ブザーを活用する。

防犯ブザーはいざという時に使えるようにしておくことが重要です。

ランドセルにつける場合は子どもの手の届く前のベルトに装着します。

また、よく見える所に身につけることで、犯罪の抑止効果も期待できます。

4. 日常生活の中で誰でもできる「ながら見守り」を行う。

子どもの登下校や放課後の時間帯に見守り活動を行いましょう。防犯パトロールの腕章を付けて歩いたり、自転車のカゴに防犯ステッカーを付けるだけでも、地域の防犯意識を高める効果があります。私たち一人一人の行動が、不審者から子どもを守り、安全な地域をつくっていきます。

「ながら見守り」の例

- ・犬の散歩をしながら見守る。
- ・通勤や買い物のため道を歩きながら見守る。
- ・庭の手入れをしながら見守る。

※ 防犯パトロール用腕章を活用しましょう。



5. 「子ども 110 番の家」、「防犯連絡所」などを子どもと一緒に確認する。

「子ども 110 番の家」

犯罪等の被害にあったり、あいさうになって助けを求めてきた子どもを保護し、警察への通報等を行う「子どもを守るボランティア活動」の一つです。子どもをもつ保護者や地域住民、お店や事業者等、「子ども 110 番の家」として登録してくださっているお家や店等の建物には、目印としてプレートが掲げられています。

「防犯連絡所」

警察及び地域の防犯協会が、地域住民の中から選んで委嘱した防犯連絡員が住む家を防犯連絡所といいます。防犯連絡員は所轄の警察署と密接に協力しつつ、地域の町内会などとともに自主的な防犯活動を行っています。一般の地域では、およそ 100 世帯に 1 箇所設置されています。

6. 情報を収集する。

「びかぼメール」や「まち comi メール」に登録し、不審者情報や各種犯罪情報をいち早く得られるようにしておきましょう。（本誌 p.18,19 参照）

7. 家庭・学校・警察・防犯ボランティアとの連携を図る。

「子どもに声をかけて連れて行こうとしている」、「犯人は逃げたばかり」などの場面を見かけたら、迷わず110番通報をし、次のことを落ち着いて話しましょう。

「110 番通報で話すこと」

- ① 何があったのか ……どろぼう、交通事故、けんか等
- ② どこで ……市町村名、住所、目印になるお店等
- ③ いつごろ ……たった今、5 分ぐらい前等
- ④ 犯人は、相手は ……そこにいるか、数、服装、車のナンバー・色等
- ⑤ 今どうなっている ……その場の様子、けが人の状態等
- ⑥ 通報したあなたについて…名前、住所、電話番号等

110番通報の後、学校にも知らせます。

緊急ではない相談や問い合わせは、近くの交番か駐在所、警察署に連絡するか、警察相談専用ダイヤル「**#9110**」に電話してください。

8. 子ども自身にも「危険を回避する力」、「身を守る力」をつけさせる。

例：「不審者につかまりそうになった！」

↓

防犯ブザーを鳴らす。

↓

ランドセルやリュックを捨ててダッシュ！

↓

大声で「たすけてー！」と叫びながら逃げる。

↓

不審者から**20m**離れるよう走る。

(※犯罪者は20m逃げられるとあきらめる可能性が高い、というデータあり。)

9. 地域の人にあいさつをする習慣を身につけさせる。

子どもたちが地域の人たちとあいさつを交わす習慣を身につけることによって、地域の人たちの顔を覚えることができます。また、「安心できる人」と「不審な人」の区別をする目が養われます。知っている人に会ったら積極的にあいさつをするよう声がけをしましょう。